

日本マレーシア経済協議会第三十一回合同会議における内閣総理大臣祝辞(代読)

平成二十四年十月十日(水)(於 ホテル・イスタナ・クアラルンプール)

ナジブ首相、ムスタパ国際貿易・産業大臣、日本及びマレーシアの経済界の皆様、並びに御列席の皆様、

本日、日本マレーシア経済協議会(JAMECA)及びマレーシア日本経済協議会(MAJECA)の第三十一回合同会議の開催をお慶び申し上げますとともに、これに合わせ、ナジブ首相の御臨席も得て東方政策三十周年記念カンファレンスが開催される運びとなったことを心からお祝い申し上げます。

我が国とマレーシアとの二国間関係には、本年三十周年を迎えた東方政策を基盤とする人的交流に加え、進出日系企業による堅調な投資、経済連携協定(EPA)の下での活発な貿易や投資に支えられた層の厚い絆があります。先月のウラジオストクAPECではナジブ首相と有意義な首脳会談を行い、また、先週にはアブドゥル・ハリム・ムアザム・シヤー第十四代国王王妃両陛下を国賓として我が国にお迎えするなど、両国ハイレベルで緊密な交流が行われています。経済面においても、マレーシア進出日系企業は約千四百社に上り、今後は、インフラ整備、特に高速鉄道、水ビジネス、スマートコミュニティ等の分野で我が国の技術を活用した具体的な協力を進展させていきたいと考えております。また、本年九月からマレーシア国民に対して一般短期滞在数次ビザの発給を開始いたしました。これにより、国民レベルでの交流が一層発展することを期待しています。

一九八二年に開催された日本マレーシア経済協議会第五回合同会議において、マハティール元首相は、東方政策のアイディアを提唱されました。したがって、本日、日本マレーシア経済協議会第三十一回合同会議に合わせ、東方政策三十周年記念カンファレンスが開催されることは、大変時宜を得たものであります。マレーシアは、ナジブ首相の力強いリーダーシップの下、二〇二〇年までの先進国入りを目指し、「質の高い人材育成」や「グリーン・テクノロジー、ハイテク分野等の新しい経済分野での投資」を

重視されており、我が国としても、こうした施策を後押しするために具体的な協力を進めていきたいと考えています。例えば、東方政策の集大成ともいえるマレーシア日本国際工科院(MJIIIT)の発展を通じた地域の未来を担う人材の育成に共に取り組むことは、マレーシアのみならず地域の発展にもつながるものであります。本日の会議では、東方政策の新たな方向性も含め、日・マレーシア関係の更なる発展に向けて活発な議論がなされることを期待しております。

世界は「アジア太平洋の世紀」を迎え、アジアは世界の成長センターとして世界経済を牽引する存在へと発展してきました。アジアにおける豊かさの増大は、アジアにおける中間層の拡大を生み、その旺盛な購買力が生み出す好循環は、これからの世界経済の更なる成長の原動力となっていくでしょう。一方で、アジアの確かな繁栄を現実のものとしていくためには、防災、環境・気候変動問題、少子高齢化といった地域共通の課題が数多くあるのも事実であり、これらの課題の解決に当たっては、我が国がこれまでに蓄積した経験と知見を地域に共有できるものと確信します。我が国は、アジアと共に成長し、共に発展していくために、これからも積極的な役割を果たしていきたいと、マレーシアと引き続き連携していく所存です。

最後に、本日の会議の成功を心から祈念するとともに、皆様の率直な議論が、二国間の経済関係の発展のみならず、地域や世界経済の課題解決への契機となることを強く期待し、私の挨拶とさせていただきます。

平成二十四年十月十日 日本国内閣総理大臣 野田 佳彦